

【社会】

JR東中野駅前 視覚障害者が渡れぬ信号

2016年4月10日 朝刊

青信号に変わっても、視覚障害者が渡れない横断歩道が、東京都中野区
のJR東中野駅前にある。この信号は、青のときに鳴る誘導音がない。これまで
は並行する都道(山手通り)の信号が同時に青になるため、車の発進音を頼
りに渡っていたが、去年の駅前ロータリー新設に伴い、車が動くタイミングを変
えてしまったのが原因。警視庁は本紙の指摘を受け、「早急に誘導音を付け
て対応する」としている。(皆川剛、石井紀代美)

六日朝、JR東中野駅西口前で、近くに住む全盲の川村和利さん(46)に同
行取材した。青信号になり、通勤の会社員や入学式へ向かう親子連れが行き
交う横断歩道を前に、川村さんは立ちつくした。

「この信号は以前から視覚障害者用の誘導音が鳴らなかった。並行する山
手通りの車の走行音を頼りに渡っていました」

昨年三月、都と区、JR東日本の再開発で駅前ロータリーが整備され、路線
バスとタクシーが乗り入れるようになった。バスなどを車道へ出すために、山
手通りの車両用信号が青になるタイミングを遅らせたところ、この歩行者用信
号が青になっても、視覚障害者が横断の手がかりにする車の発進音がなくなっ
てしまった。

この歩行者用信号が青になってから十六秒後、山手通りの信号も青に。走り出した車の音を聞き、ようや
く川村さんが一步を踏み出した。

土地勘のある川村さんには十分に渡りきる時間的余裕があったが、聴覚や触覚だけを頼りにする視覚障
害者には不便だけでなく、危険だ。

「(障害者団体に)駅前の再開発を始めるという連絡はあったが、信号や点字ブロックの扱いについては
話がなかった。私たちにも配慮をしてほしい」と川村さんは残念がる。

警視庁交通管制課幹部は「信号の設置についてJRや都と何度も協議してきたが、問題の信号は整備事
業のエリアから外れており、議論から抜け落ちてしまった」と説明。東中野駅前はバリアフリー法に基づき
各自治体が指定する「重点整備地区」内にあり、交通量も多いため、周囲の信号と区別する誘導音を付け
て対応するという。

◆都内の誘導音付き信号14%

警視庁によると、都内に歩行者用信号は一万五千七百七十二カ所あり、うち視覚障害者用の誘導音声
付きは14%に当たる二千二百三十四カ所(三月末現在)。

同庁は二〇二〇年までに各市区町村が定めた重点整備地区のうち、交通量が多い三百カ所強に誘導



歩行者用信号が青色にとる横
断歩道で立ちつくす川村和利さ
ん＝東京都中野区で

音声を付ける計画で、本年度は百十五カ所に設置する。

誘導音は、交差点の場合、交通量の多い道路の横断歩道には「ピョピョ」、少ない道路には「カッコウ」の音を鳴らし、混乱を避けている。

東中野駅前では別の信号で既に両方の音が使われているため、同庁は問題の信号には異なる音を付ける予定だ。

東京都盲人福祉協会は「今回の件に限らず、駅前や繁華街など交通量の多い地区では、全ての歩行者用信号に誘導音を付けてほしい」と求めている。

